キャリア・チェンジ・ストーリーとしての映画『ショーシャンクの空に』

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 悟 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4526

キャリア・チェンジ・ストーリーとしての映画『ショーシャンクの空に』

学芸学部　国際英語学科　高橋　悟

要旨：映画『ショーシャンクの空に』は公開後四半世紀を過ぎてもなお多くの感動を世界中の人々に与え続けている。本作品に関してはいくつかの批評や分析がなされているが、本作品を「キャリア・チェンジ・ストーリー」としても鑑賞しうるか否かについてつぶさに論考されたものは管見の限り見当たらない。そこで本稿では、「キャリア・チェンジ」の定義に照らしてこの点の検証を試みた。その結果、本作品を労働環境の著しい変化に係る「キャリア・チェンジ・ストーリー」と捉えることは十分に可能であり、また多様な価値を幾重にも実現した主人公をそのストーリーの成功者とみなしうることも確認された。さらに既存文献で明らかにされた成功者に共通する資質や行動特性、戦略などを個々のシーンに即して吟味した結果、それらすべてを彼が具備・具現化していることが確認された。本作品で設定された刑務所という舞台はあくまでも一つの譬えであり、逆境の中で希望を失わず懸命に生きる彼の姿は、いわば厳しい現実社会に生きる我々自身の投影であると考えられる。

キーワード：ショーシャンクの空に、キャリア・チェンジ・ストーリー、キャリア・チェンジ、転職、転職映画

1. はじめに

アメリカ映画『ショーシャンクの空に（原題：*The Shawshank Redemption*）』（監督／脚本：フランク・ダラボン）は 1994 年に公開されたが、同時期に他に衆目を集める作品が数本あったこと、またその題名に多義的で馴染みにくい語（redemption）が含まれていたことなどから、当初はさほどヒットすることはなかった。しかし、本作品はレンタルビデオの普及という時代の恩恵にあずかりつつ、またその豊穣かつ圧倒的な内容でもって全世界で揺るがぬ地位を確立していく（高橋 , 2020b）。

Amazon 社の子会社として 500 万本以上の映像コンテンツを保有・提供する IMDb 社の映画評価ランキング（Top Rated Movies）において、2020 年 10 月末現在、本作品は『ゴッドファーザー』らを抑えて首位を堅持している。

本作品を貫くテーマとしては、①希望（渡辺 , 1995; 鷲巣 , 1995; Sánchez-Escalonilla, 2005; Parse, 2007; 西内 , 2009; Grady & Magistrale, 2016; Dawidziak, 2019; Nathan 2019）、② 友 情（Darabont, 1996; Magistrale, 2003; 黒川 , 2005; 金澤 , 2017）、③宗教性（キリスト教的要素）（Kermode, 2003; 姜 , 2007; Reinhartz, 2013; Dawidziak, 2019; 服部 , 2019; 澤野 , 2020）などが挙げられることが多い。

これらを踏まえたうえで高橋（2019）は刑務所からの脱獄を描いた他の映画 6 本と本作品を比較し、後者ならではの独創的特徴として 12 点を抽出している。また主人公アンディ・デュフレーンの生き方に言及し、本作品を「より大きな働き甲斐を求め、目下の仕事をこなしつつ、人知れず努力を重ね、新天地をめざす『転職映画』として鑑賞することもできるであろう」との見解を示している。他方、「転職映画」としての見方に関する論及は限定的であり、今後より踏み込んだ研究の進展を期待しているとも受け取れる。

その他、監督と脚本を担当したダラボン（Darabont）自身も、公開 25 周年にあたる 2019 年に NBC ニュースが行ったインタビューの中で、アンディが小さなロックハンマーを使って分厚い壁を掘り進むさまは、個人のキャリア（career）形成を含む世の中の多くの事柄を象徴していると語っている。しかしこの点に関する彼の発言は短く、その真意を正確に読み取ることはむずかしい。

そこで本稿では、「転職映画」からさらに一歩進めて「キャリア・チェンジ・ストーリー（career change story）」として本作品を鑑賞しうるか否かについて論考する。次に仮に可とした場合、主人公アンディが「キャリア・チェンジ（career change）」に成功したといえるか否かについて検討する。そして最後に、もし彼

が成功者であるならば、彼のどのような資質や行動の中にその要素を見出すことができるかということについて考察する。

なお、本作品全体のテーマとして「キャリア・チェンジ」を挙げたり、本作品全体を「キャリア・チェンジ・ストーリー」として包括的に捉えたりした研究は管見の限り国内外では見当たらない。したがってこの観点からの分析自体が先例のない試みといえる。

2. 用語の定義

『広辞苑 第七版』（新村編 , 2018）によれば、「転職」とは「一つの職から他の職に転ずること。職業をかえること」と記されている。また「職業」とは「日常従事する業務。生計を立てるための仕事。生業、なりわい」とされている。山本（2005）は、「転職」とは「一般に勤務先の組織または雇用主を変えることを意味する」とし、わが国では同じ業種における「転社」の意味合いで使われる場合が多いと述べている。

これに対し「キャリア・チェンジ」という言葉はもともと英語であり、その概念は転職のそれよりも大きい。Carrillo-Tudela ら（2016）は「ある働き手が、雇用主を変え、それ以前に従事していた業種や職種と異なる新しい仕事を始めるケース」と定義している。また Griffin（1981）は自身の論説の中で Robbins（1978）が唱えた「新しい知識やスキルを学ぶか、全く異なる労働環境に足を踏み入れるか、そのどちらかまたは両方を伴う著しい変化」という定義を紹介している。

以上、「転職」と「キャリア・チェンジ」のそれぞれの定義を確認したが、本稿では主に後者の観点から、Griffin（1981）が紹介した Robbins（1978）の定義を念頭に入れて論じていくこととする。

3. 研究の方法

本稿では、研究の方法として、文学テキストの解釈技法（戸松 , 2012）を映画テキストに応用し、作品を繰り返し鑑賞しつつ、銀幕上に表現された言葉や事柄の意味や関連性を読み解き統合していくという解釈学のアプローチを採用する。

久米（2005）によれば、解釈学とは「テキスト解釈の方法と理論を扱う学問」であり、「その場合のテキストとは、文字で表現された文書や文学作品だけでなく、現代では神話や夢、芸術作品など、解釈を要するあらゆる形式の言語作品までも含まれる」という。したがってこのアプローチはテキストを含む脚本に基づいて構成された映画に関しても十分に適用可能であると思料される。

4. 分析の視座を得るための文献

本稿では、以下の 3 冊を分析の視座を得るための文献として用いることとする（詳細情報は「参考文献」を参照）。

- 『会社をやめて人生に勝つ：キャリア・チェンジで適職をつかめ』（1985）
- 『ハーバード流 キャリア・チェンジ術』（2003）
- 『超一流ヘッドハンターが教える！ 30 代からの「異業種」転職 成功の極意』（2018）

多数の関連文献の中からこれらを選定した理由は、キャリア・チェンジに関し、いずれも豊富な事例を踏まえて極めて具体的に成功者に共通する行動特性やキーワードを抽出し、さらに成功のための戦略を列挙・解説しているからである。

このうち学術研究者による著書は、かつてハーバード・ビジネス・スクールで教鞭を執り、その後ロンドン・ビジネス・スクールに移籍したイバーラ（2003）の『ハーバード流 キャリア・チェンジ術』のみである。他方、1980 年代及び 2010 年代の我が国の現場第一線の実務者（転職経験者及び転職支援者）によって著された他の 2 冊にも時空や文化を超えて示唆に富む視点が多々含まれていると考えられる。

5. 分析の視座

表 1 は上掲の 3 冊に文献番号を付し、そこに記された主要内容を取り出して機械的に並べたものである。また表 2 は表 1 内の項目が相当数にのぼることから、これらを KJ 法（川喜田 , 1967）を用いて整理・統合したものである。その最終化に至る過程において文献内の既存項目では的確に表現しきれない上位概念については、筆者が独自に名称をつけることによって明確化・構造化を図った。本稿ではこの表 2 の「筆者による 3 つの大分類」と「整理・統合後の項目」においてカッコ・半カッコで示した文言を、見出し・小見出しとして次々節の考察の中で表記し、順を追って論じることとする。

6. 『ショーシャンクの空に』の概要

本作品の主な舞台は米国東部メイン州のショーシャンクという架空の地にある刑務所である。時代設定は 1940 代後半から 1960 年代後半までの約 20 年間である。

主人公の名はアンディ・デュフレーンといい、30 代

表１　分析の視座を得るための文献とその内容

文献 1	文献 2	文献 3
『会社をやめて人生に勝つ： キャリア・チェンジで適職をつかめ』 目次 （全 7 章の各タイトル）	『ハーバード流 キャリア・チェンジ術』 「新しいキャリアを見つけるための 型破りな九つの戦略」 （219-223 頁）	『超一流ヘッドハンターが教える！ 30 代からの「異業種」転職 成功の極意』 「転職が成功する人のキーワード」 （全 12 ポイント）（82-101 頁）
自己と状況を数字で読むこと	行動してから考える	利他の精神、無私の精神のある
一度ドン底に落ちて自己確立する	本当の自分を見つけようとするのはやめる	放下著・百雑砕を備えている
実力の蓄積があれば、味方は集まる	「過渡期」を受け入れる	最後まで筋を貫きリスクをとる
時代のニーズを先取りすること	「小さな勝利」を積み重ねる	個人の利益よりも公益を重んじる
自分の人生は、自分で演出せよ	まずは試してみる	「親しき仲にも礼儀あり」をわきまえた
飛ぶ前には雌伏しなければならない	人間関係を変える	「七転八起」・ダルマの胆力を持った
要するに好きな道を突進することだ	きっかけを待っていてはいけない	ヨコの人間関係の広がりを求めて縁を大切にする
	距離をおいて考える	感情をバネにプラス思考に換えられる
	チャンスの扉をつかむ	遊び心と童心を持って即興ができる
		孤独とうまく付き合える
		他人と比較しないで自己実現を目指せる
		アポイントメントに絶対に穴をあけない

注：文献 3 に関してはすべてのキーワードの語尾に「人」という字があったが、文献 1 及び 2 と表現を揃えるために本表内では削除してある。

表２　考察を行うための大分類と整理・統合後の項目

	筆者による 3 つの大分類	整理・統合後の項目	文献番号
(1)	**自己を捨て省察し再定義する**	1) **一度ドン底に落ちて自己確立する**	1
		➢ 本当の自分を見つけようとするのはやめる	2
		➢ 放下著・百雑砕を備えている	3
		2) **まずは行動し、小さな勝利を積み重ねる**	筆者作成
		➢ まずは試してみる	2
		➢ 行動してから考える	2
		➢ 「小さな勝利」を積み重ねる	2
		3) **自己と置かれた状況を冷静に見つめる**	筆者作成
		➢ 自己と状況を数字で読むこと	1
(2)	**他者と意義ある関わりを持つ**	1) **人間関係を変える**	2
		➢ ヨコの人間関係の広がりを求めて縁を大切にする	3
		2) **他者に敬意を払い、他者に尽くす**	筆者作成
		➢ 利他の精神、無私の精神のある	3
		➢ 個人の利益よりも公益を重んじる	3
		➢ アポイントメントに絶対に穴をあけない	3
		➢ 「親しき仲にも礼儀あり」をわきまえた	3
		3) **実力の蓄積があれば、味方は集まる**	1
(3)	**視野広げ自己を律する**	1) **自分の人生は自分で演出せよ**	1
		2) **心に「遊び」をもって孤独と付き合う**	筆者作成
		➢ 孤独とうまく付き合える	3
		➢ 遊び心と童心を持って即興ができる	3
		3) **自分の力を信じる**	筆者作成
		➢ 最後まで筋を貫きリスクをとる	3
		➢ 他人と比較しないで自己実現を目指せる	3
		➢ 感情をバネにプラス思考に換えられる	3
		➢ 「七転八起」・ダルマの胆力を持った	3
		4) **時を読み、時を待ち、時を創り、時をつかむ**	筆者作成
		➢ 「過渡期」を受け入れる	2
		➢ 距離をおいて考える	2
		➢ 飛ぶ前には雌伏しなければならない	1
		➢ きっかけを待っていてはいけない	2
		➢ チャンスの扉をつかむ	2
		➢ 要するに好きな道を突進することだ	1
		➢ 時代のニーズを先取りすること	1

の若さで、州内の港湾都市ポートランドにある大銀行の副頭取を務める超エリートであった。しかし彼は私生活では妻の不貞行為に苦しんでいた。ある晩彼は酩酊して妻の愛人宅に行き、そこで逢引きしている２人を銃殺したとして終身刑２回分を宣告される。実は真犯人は別にいたのだが、あやふやな記憶に基づく彼の証言は裁判官や陪審員の心証を害し、結局ショーシャンク刑務所に収監される。そこは悪辣で暴虐の限りを尽くす刑務官と囚人たちの巣窟であった。

彼は非道な仕打ちや暴行を受けながらも悪夢のような生活を耐え忍ぶ。やがて彼は元銀行員としての専門知識やスキル、幅広い教養を活かして徐々に周囲の信頼を勝ち得、刑務所内でなくてはならない存在へとなっていく。その過程においてレッドという名の囚人と友情の絆を結ぶ。そして入獄から19年後、人知れず掘り続けた独房の穴を通じて見事脱獄を遂げ、メキシコの太平洋岸の町に落ち着き、ホテル経営に取りかかる。その後ほどなくして仮出所し自分を追いかけてきたレッドと青空の下、白浜の上で感動の再会を果たすという場面でエンディングを迎える。

なお、本映画の原作はスティーヴン・キングが1982年に発表した*Different Seasons*という著作（和訳版では『ゴールデンボーイ：恐怖の四季 春夏編』（1988）という分冊）の中に収録されている「刑務所のリタ・ヘイワース（*Rita Hayworth and Shawshank Redemption*）」という中編小説である。

7. 考察

本節の前段では、本作品を一つの「キャリア・チェンジ・ストーリー」として鑑賞しうるか否かについて論じる。次に仮に可とした場合、主人公アンディがそのストーリーの成功者とみなしうるか否かについても検討する。

エリート銀行員だった彼は、投獄された日を境にそれ以前の人生とは全く異なる体験をしていく。最初の2年間、彼は刑務所の規律や生活リズムに適応することに努め、また同時に洗濯係として新しい仕事を一つ一つ覚えていく。その一方で暴力と不条理の辛酸を舐める。その後図書係へと配置転換され、会計係を兼務する。また高卒同等資格の取得を望む囚人たちに対しては教師として学問を基礎から教授するとともに、刑務所の図書室を整備したり美しい音楽を大音量で放送したりと、いわば総合的なプロデューサー兼エンタテイナーのような役割も果たす。

彼は冤罪であり、自ら望んで入獄したわけではない。しかし同様のネガティブな「著しい変化」は誰の身にも起こりうることである。例えば会社員であれば、ある日突然、左遷や意にそぐわない配置転換を言い渡されることもあるであろう。また喜び勇んで就職・転職した会社が実は巧妙に偽装されたブラック企業であったというケースは十分にありえることである。あるいは組織全体は「ブラック」ではないにしても、配属先の部署、すなわち小さな閉鎖空間で、陰湿ないじめや嫌がらせが起こる可能性は、人間というものが完全無欠な存在ではない以上、完璧に排除することはできない。現に日本で一流とされる企業や国立大学においてもパワハラや過労死、不正、隠蔽などが繰り返されてきた事実を踏まえれば、そのコミュニティの「掟」や「しきたり」を知らない新任者や異動者、すなわち雇用弱者や情報弱者が被害者となる可能性は古参者に比べて格段に高いと考えられる。なぜならそこには新参者の意欲、経験、能力などを生かすどころか潰すような悪しき組織的DNAが浸透し、それを防ぐチェック体制も機能していないからである。

我が国の厚生労働省は「ブラック企業」に関して定義をしていないが、古川（2013）は、ブラック企業では少なくとも「違法もしくは脱法的な労務管理」が常態化し、勤務し続けた場合には「生存権が脅かされる」危険があることを指摘している。また今野（2012）は、都内のある会社を取り上げ、そこには従業員に対する「徹底的な従属とハラスメント」が顕著に見られると述べている。これらのブラック企業の特徴は、よこしまな所長と看守らによって支配されたショーシャンク刑務所にもそのまま当てはまるものである。

他方、仮にブラックな環境にいなくても、今の自分の仕事に何らかの不満を持っている人もいれば、満足しつつもより一層のステップアップを望んでいる人もいるであろう。Cope（2019）はそのような人たちが置かれた状態を刑務所に譬え、彼らに向けて「刑務所から脱出し、夢の生活を築け（Escape your prison and build a dream life.）」というメッセージを発している。またアンディ役を演じた俳優のティム・ロビンス（Tim Robbins）も、“off CAMERA with Sam Jones”という映像コンテンツのインタビューの中で、我々の多くはそれぞれの人生において何らかの形で囚われの身となっており、刑務所は配偶者との不仲や、不本意な仕事に従事していることなど、社会のありとあらゆる困難な境遇や事象の譬えとなっている、と語っている。

ショーシャンク刑務所はブラック企業さながらの、あるいはそれをはるかに上回る劣悪で陰惨な環境だっ

たが、アンディは常に視界を良好に保ち、最後にまんまと脱獄を遂げる。そしてメキシコに渡り、ホテル経営を開始する。彼は銀行員として復職することは叶わなかったが、予期せぬ「不運」に屈することなく、刑務所という最初の「新天地」で次々と新境地を開き、さらにジワタネホという名の第二の「新天地」で次なる新境地を開いていくことが予見されるのである。

先に挙げた「キャリア・チェンジ」の「新しい知識やスキルを学ぶか、全く異なる労働環境に足を踏み入れるか、そのどちらかまたは両方を伴う著しい変化」という Robbins（1978）の定義に従えば、本作品の主人公アンディは、ネガティブとポジティブの両方の労働環境で「著しい変化」を体験したことになるであろう。

したがって全編を通じたストーリー展開から本作品を「キャリア・チェンジ・ストーリー」と捉えることは十分に可能であると考えられる。そしてその物語の過程においても結末においても、彼は幾多の価値を実現したことから（高橋，2020a）、キャリア・チェンジの成功者とみなすことができるであろう。ただしこの点に関しては暫定的見解とし、彼のどのような資質や行動の中に成功者としての要素を見出すことができるのかという点と合わせて確認していくこととする。

なお、ここからは表2の「筆者による3つの大分類」と「整理・統合後の項目」においてカッコ・半カッコで示した文言を以下に見出し・小見出しとして表記し、考察を進めていく。

（1） 自己を捨て省察し再定義する

1）一度ドン底に落ちて自己確立する

アンディの入獄初日の夜、レッドはナレーターとして次のように語っている。「最初の夜が一番つらい。素っ裸で歩かされる。肌は消毒薬でヒリヒリ痛む。独房に入り、鉄格子が閉められた時、現実だと気づく。今までの人生を失い、際限のない時との葛藤が始まる。新入りは正気を失いかけ、誰かが泣き始める。いつも必ず」と。

消灯後まもなく一人の新入りがからかわれて泣きわめき出し、その声を聞いて駆けつけた刑務主任によって事実上撲殺される。翌朝食堂でアンディはそのことを知り、また自分に配給された食事の中で蠢くウジ虫を見つけてぎょっとする。彼の様子に気づいた老囚人からそれを乞われ、彼はぞっとした表情で手渡す。それを素早く受け取った老囚人は上着の内ポケットに隠したひな鳥に餌として与えるのであるが、アンディはようやく状況を把握した後もこわばった表情を崩すことはなかった。この気味の悪い場面の一部始終を見て、衝撃を受けた視聴者は少なくないであろう。

その後の獄中生活でアンディはボグズという名の極悪囚人の一派から2年間にわたって性的暴行を受け続ける。この一種の「無法地帯」ともいえる刑務所の中では過去の栄誉も功績も何の役にも立たず、心も体もズタズタに引き裂かれた彼はまさに「ドン底」を味わう。時間の経過とともに彼が次第に自己を確立していくプロセスは追って述べていく。

2）まずは行動し、小さな勝利を積み重ねる

入所2年後の1949年の春、ナンバープレート工場の屋上で作業をしていたアンディは、刑務主任が弟の資産相続に係る納税について不満を漏らしているのを偶然耳にする。彼は反射的に刑務主任に近づき、非課税のための手続きを自分が代行することと引き換えに作業中の囚人たちにビールをご馳走するよう求める。一見無鉄砲で衝動的な行動であったが、この一件が彼の刑務所内でのプレゼンスを高める大きな契機となる。すなわち、勇敢にも刑務主任に近づいた彼はその後代行業務を成功裏に遂行し、その一連の如才ない行動によって他の刑務官からも囚人たちからも一目置かれる存在となるのである。

またある晩、彼は独房の壁に刻まれたいくつかの名前にふと目を留め、試しに自分の名前を彫ろうとする。そして壁から床にぽとりと落ちた断片を手に取り、地質学に関する博識をもとに壁の材質や強度に考えを巡らせる。やがて彼はその壁から脱獄用のトンネルを掘り進めることになる。

先の一件後、彼は所長の取り計らいで洗濯係から図書係に配置転換されると、蔵書を増やしたいと所長に訴えるものの即座に却下されてしまう。しかし彼はただでは引き下がらず、所長の許可を得て、州議会に陳情の手紙を週1回のペースで出し始める。その時点において、それが将来良い結果につながるか否かは不確かであったが、ともかく彼は行動を起こしたのである。そして6年後、その努力は結実する。州議会は彼の熱意に根負けし、大量の中古図書類と小切手200ドル分を刑務所に送付してきたのである。この「小さな勝利」は彼を大いに奮い立たせ、さらに陳情の回数を増やした結果、その4年後にはショーシャンク刑務所の図書室のためだけに年間500ドルの州予算を計上させることに成功した。

その傍ら、彼は刑務官たちの確定申告に加え、所長

の不正蓄財をも黙々と手伝う。事の善悪は別にして、こうして彼は持ち前の粘り強さと教養、元銀行員としての専門性を存分に発揮し、周囲から重宝され、刑務所内で不可欠な存在へと自己を高めていく。

3）自己と置かれた状況を冷静に見つめる

上述のとおりアンディはまずは行動したり試してみたりしたが、それと同時に自己の置かれた状況を冷静に分析していたと考えられる。

彼の独房は棟の一番端に位置していたが、壁の厚さから小さなロックハンマーでトンネルを掘り終えるのにどれくらいの年数がかかるかについて、穴掘り作業の途中で算出していたと考えられる。さらにトンネルを抜けた後にどのように下水管が敷かれ、その出口がどのように外界につながっているかなど、刑務所全体の構造に係る情報も密かに入手していたと思われる。そして彼は下水管を砕くための岩をあらかじめ用意し、雷雨の夜を選び、満を持して脱獄に踏み切るのである。

その一方で、彼は脱獄時までに所長の汚職を通じて蓄えられる金額、預金の引き出し方、メキシコの目的地への交通手段と所要日数、ホテル経営を開始するために必要な資金など、想定されるありとあらゆる要素を洗い出し、緻密に計算をしていたと考えられる。すなわち彼にとって脱獄とは、自身のめざす「キャリア・チェンジ」を成し遂げるためには必ず突破しなければならない関門であり、絶対に失敗の許されない挑戦であった。それゆえ彼は、脱獄後のことまでも視野に入れ、冷静な自己分析と状況分析を重ねていたと考えられる。

（2） 他者と意義ある関わりを持つ

1）人間関係を変える

イバーラ（2003）は、キャリア・チェンジの型破りな戦略の一つとして「人間関係を変える。（中略）あんなふうになりたいと思う人や、キャリア・チェンジを手助けしてくれそうな人を見つけだす。だが、そうした人をこれまでの人間関係から探そうと考えてはいけない」と述べている。

アンディの場合、刑務所に投獄されることによってそれまでに築いてきた人間関係はすべて断ち切られてしまったといえる。そして過去に付き合ったこともなく、また一般社会にいれば決して交わることもなかったであろう人間たちとの「共同生活」「共働生活」を否応なしに始めなければならなかった。

入所から一か月を過ぎた頃、アンディは刑務所の外界からの物品調達に長けたレッドに自ら声をかける。彼らは長い時を経てかけがえのない親友同士になるのだが、アンディは他の一癖も二癖もある囚人たちとも仲良くなる。さらに並行して、互いの立場は異なるものの、同じ生身の人間である看守たちとも心を通わせ、彼らの信頼も勝ち獲っていく。

2）他者に敬意を払い、他者に尽くす

大野（1969）は、働く者が実現すべき自己とは、己の有能さを主張する自己ではなく、むしろより望ましい「職場づくり」に参加する自己であり、「仲間といっしょに、何物かをつくり出そうとするところの自己」であると述べている。また武元（2018）は、転職成功者にみられる特性として「利他の精神、無私の精神」を挙げている。アンディはまさにこれらの自己や精神の体現者であったと理解される。

高橋（2020a）はヴィクトール・E・フランクルが唱えた創造価値、体験価値、態度価値の概念を批判的に検証したうえで発展的な解釈を加え、それぞれの価値の実現を通じてアンディは自己完結的な目的だけでなく利他的な目的も達成したと述べている。

既述の点と重なる部分もあるが、具体的には、まず彼は刑務官及び刑務所長に対して、免税・納税業務を代行するとともに蓄財・殖財を支援した。次に囚人たちのために図書室を拡充し、美しい音楽で彼らの心を潤わせ、高卒同等資格の取得を望む者に対しては教育を施した。その中にあって、先輩の図書係であり、仮出所後に自死したブルックスに敬意を払い哀悼の意を込めて、彼の名を刻んだ「Brooks Hatlen Memorial Library（ブルックス・ハトレン記念図書室）」というプレートを仲間と作り、図書室の天井から吊るした。この最後の行為一つとっても、アンディがいかに他者に対して思いやりの深い人間であったかを伺い知ることができよう。

また親友のレッドに対しては、チェスの指南を申し出たり、彼の入所30年目の仮釈放が却下された際には「残念賞」としてハーモニカを贈ったりした。さらに脱獄後に腰を落ち着ける予定のメキシコの町の名もレッドだけに明かしている。脱獄後、アンディはレッドと交わした約束を果たすためにわざわざバクストンという郊外の地まで行き、樫の木の下にレッドへの手紙と現金（旅費）を埋めたのである。そしてレッドに言ったとおり目印となる黒曜石をその上に乗せておくことも忘れなかった。スクリーン上には映し出されていないが、追手が迫る中でアンディがこの作業を手際よく

行う様子が目に浮かぶかのようである。

これに加え、アンディは国境を越える直前にテキサス州のフォートハンコックという町からレッド宛てに絵葉書を投函している。その絵葉書には刑務所の住所とレッドの氏名だけが書かれ、メッセージ欄は空白であった。それはアンディがレッドと自分を守るために意図したことであったが、唯一消印がアンディが国境を通過した地点をレッドに知らせるのである。その絵葉書はレッドに対し、行く手を照らす灯台のような役割を果たしたと捉えられる。仮出所後、レッドはブルックスと同じように一般社会への適応にひどく苦しむ過程をたどるのだが、最後は意を決し、仮釈放違反を承知でフォートハンコックをめざしバスで南下するのである。

最後に、転職成功者に見られる特性の一つである「個人の利益よりも公益を重んじる」（武元, 2018）という点について言及する。アンディは自分の小さな利益だけを考えれば、逃走や開業に必要な物だけを携行して脱獄をすればよかった。しかし彼の良心はそれで済ますことを良しとしなかった。すなわち彼は所長の汚職や刑務主任が犯した殺人の証拠となる帳簿・書類等一式をビニール袋に入れ、縄で自分の脚に縛り付けて狭いトンネルの中を這い進んだ。それは文字どおり足手まといであったが、彼にとっては社会正義を貫くうえで不可欠なものだったのである。翌朝彼は訪れた銀行にそれを託し、地元の新聞社へ送付してもらう。これにより刑務所内で隠蔽されていた悪事が白日の下に晒され、偽善者の仮面を被った彼らは惨めな末路を迎えることになる。

ちなみに本作品の英文原題に含まれる *redemption* という単語の原義を英英・英和辞典で確認した高橋（2020b）は、その元となる動詞 *redeem* には「復讐する、借りを返す、代償を払わせる」という意味も埋め込まれていると述べている。

3）実力の蓄積があれば、味方は集まる

牧野（1985）は、キャリア・チェンジに関する「実力」の中身を「専門知識、技能、人脈など」と明かしているが、本稿ではさらに人間的魅力、すなわち人間としての尊厳、品位、矜持、礼節、誠実、慈悲、執念、勇気、見識、自己省察力、感受性、先見性など、一人の人間の核を成すともいえる要素も加味して論じていくこととする。

レッドは運動場で初めてアンディと言葉を交わした後に次のように語っている。「彼には静かな雰囲気があった。歩き方も話し方も、この辺の普通のやつとは違ったのだ。この世の苦労も心配事もない男が公園にいるかのように散歩していた。まるで、この場所から自分を隔てる、見えないコートをまとっているように」「そう、俺は初めからアンディが気に入ったというのが、正直なところだ」（アルク英語企画開発部編, 1998）と。

1949 年の春、ナンバープレート工場の屋上を塗り替えるにあたり、刑務所長はその特典付き作業への志願者 12 名を募った。見かけ上は抽選が行われたが、レッドはタバコで看守を買収し、アンディと自分を含む仲間を選んでもらうことに成功した。この作業中に起きた出来事がアンディに対する周囲の見方を変える大きな契機となったことは先に述べたとおりである。しかしここで重要な点は、そもそも彼がレッドに認められ 12 名の中に入れてもらえたということである。初めて言葉を交わして以来、レッドはアンディを観察し続けていた。アンディはボグズたちから力ずくで犯される時もあれば、撃退する時もあったが、そんな彼の戦う姿を見て、おそらくレッドは彼に人間としての芯の強さや高潔さを感じ取っていたにちがいないと思われる。ゆえに彼を信用し、仲間として受け入れ、その作業のメンバーに加えたのだと考えられる。

そして先の一件以降、アンディは囚人たちのみならず刑務所側の人間も味方につけていく。まず新たなに味方となった刑務主任がアンディの敵であるボグズを叩きのめし、刑務所外へと葬り去る。さらに自分の独房に女優のポスターを貼ることを所長から例外的に許可される。独房の中で彼が所長と初めて向き合い、聖書の一節を相互に暗誦する場面は緊張感に満ちたものであるが、もしこの時ポスターを貼ることが許されていなければ、脱獄用の穴を隠すことはできず（したがって穴を掘ることもできず）、その後のキャリア・チェンジを果たすこともできなかったであろうことは明白である。

その所長との面会後、洗濯係から図書係に格上げされ、活動の自由度の広がった彼は、陳情の結果、州議会をも味方につけるなどして、刑務所内で揺るがぬ地歩を固めていく。この過程において、彼が次々と成し得た「広範で持続性のある利他的行為」（高橋, 2019）に相当する功績については既述のとおりである。

（3） 視野を広げ自己を律する

1）自分の人生は自分で演出せよ

アンディが自分の人生を自分で演出していこうとす

るさまは本作品全体を通じて静かなトーンで描かれている。しかし普段は抑制している感情を彼が激しく高ぶらせる場面があり、それを二つ取り上げる。

一つは、アンディが新たに入所してきたトミーという名の囚人から自分の冤罪を晴らす手がかりとなる話を聞き、所長に再審請求の手続き開始を直訴する場面である。所長はその話が真実であることに気づきながらもとぼけて一笑に付そうとするが、その反応に対しアンディは「How can you be so obtuse?（どうしてそんなに愚鈍なんだ）」（アルク英語企画開発部編 , 1998）と言い放つ。これに激怒した所長はその場で彼に一か月の懲罰房入りを命じる。彼は刑務官たちに抱えられ所長室から連れ出される際に、正当なチャンスを踏みつぶされた悔しさから「It's my life!（俺の人生なんだぞ！）」（筆者訳）と何度も叫ぶ。

このシーンはアンディが自分の人生を決して投げ出しておらず、自分の人生の主役はあくまでも自分自身であるとの熱情を保持していることを示しているといえよう。彼はそれまで従順に刑に服するとともに、余りあるほどの貢献を刑務所長らにしてきた。その一方で彼は、レッドの言う「施設慣れ（institutionalized）」の精神状態に陥ることもなかったのである。この言葉は、長い年月を経て刑務所に慣れ、むしろそこを居心地の良い空間と感じるようになることを意味している。

もう一つは、懲罰房から解放されたアンディがレッドと並んで中庭で腰を下ろして話をする場面である。アンディはここから出られたらメキシコ太平洋岸のジワタネホという町でホテルを開きたいと語り、仕事の相棒としてレッドを誘う。しかしレッドはそんなものは夢想に過ぎないと否定する。アンディは今自分たちが刑務所の中にいるという、その厳然たる事実を受け止めつつ、選択肢は二つしかないと憤怒の形相で告げる。そして「必死に生きるか、必死に死ぬか（Get busy living or get busy dying.）」と言って決然と立ち上がる。「必死に死ぬか」は「生ける屍となるか」あるいは「死に怯えながら生きるか」と訳すこともできるであろう。いずれにせよこの言葉を発する前にレッドに語ったとおり、彼は逆境にあってキャリア・チェンジの最終像を明確に思い描き、自分の人生を自分で演出するための準備を陰で必死にしていたのである。

2）心に「遊び」をもって孤独と付き合う

初めてアンディと話した後、彼の歩き方や話し方などの所作を「この場所から自分を隔てる、見えないコートをまとっているように」とレッドが形容したことは先に述べた。この点に関して高橋（2020a）は、フランクル（2002）の著書『夜と霧 新版』の次の言葉を引用し、まさにアンディには「おぞましい世界から遠ざかり、精神の自由の国、豊かな内面へと立ちもどる道」が開かれていたと指摘している。

アンディは鉱物や岩石に関心があり、手先も器用であったことから、石を磨いて置物やチェスの駒を作り、休憩時間にはレッドとチェッカーの対局を楽しんだりする。そして純粋な好奇心から独房の壁に自分の名前を試しに刻んでみたことから穴掘り、すなわち脱獄の着想を得る。また独房の壁に貼ったポスターを時折眺めてはその向こうに広がる自由な世界に思いを馳せていたと思われる。彼は結局、収監中に 2 度ポスターを貼り換え、計 3 枚のポスターを鑑賞していたことになる。さらに彼は読書や音楽を愛するがゆえに図書室を整備・拡充し、そこで囚人たちを教育することにも生きる意味を見出していたと考えられる。加えて、穴掘り作業から生じる石屑を人知れず運動場で捨てることさえも楽しんでいた。こうした彼の童心と遊び心、そして文化や芸術をこよなく愛する心は、自分だけでなく他の囚人たちにとっても、とかく単調で退屈になりがちな牢獄生活に変化や活力を与え、彩りを添えていたと思料される。

彼は自分と他者の心を刺激し、時に場を和ませるユーモアとウィットのセンスも有していた。少なくともそれは次のような彼の言動から読み取ることができる。

一つ目は、初めて所長と向き合った彼が、好きな聖書の一節を聞かれ、「起きてなさい。いつ主が戻るか分からない」と即答する場面である。これは抜き打ちで彼の独房を訪れた所長に対する絶妙の当てこすりであった。さらに所長の諳んじた一節に対し、即座に「ヨハネ伝 8 章 12 節」と該当箇所を言い当てる。この時所長は表情ひとつ変えなかったが、内心ではアンディの博識に度肝を抜かれていたと推測される。

二つ目は、図書室の書架に本を戻す作業をしながらレッドと二人きりで話をする場面である。アンディは所長の不正蓄財のからくりを説明した後、自分は外にいた時は生真面目だったのに、刑務所に入ってから悪党になったと言ってレッドを笑わせる。

三つ目は、アンディが仲間と共に新入りのトミーと食堂で話していた時に、彼から投獄理由を問われ、見事に切り返した場面である。トミーの質問は一瞬その場を凍りつかせたが、彼は「弁護士にぶち込まれたのさ。ここじゃみんな無実だ。知らなかったのかい？」（筆者訳）と、以前レッドに教わった言葉を受け売り

し、皆とトミーを笑わせるのである。

四つ目は、仮出所したレッドが郊外の牧草地を訪れ、アンディが約束どおり樫の木の下に埋めておいたものを見つけ、その中にあった手紙を読む場面である。アンディはレッドにジワタネホに来るよう誘うのだが、「チェス盤も用意した」との文言を読んだ時、レッドの口元が思わずゆるむ。レッドはきっとアンディの誠実で真剣な手紙の中にも心温まるウィットを感じ取ったのであろう。

3）自分の力を信じる

ロシアの作家・ゴーリキー（2019）は20世紀初頭に発表した戯曲『どん底』の中で、貧民窟であえぐ登場人物たちに次のように語らせている。「大事なのは才能だ。（中略）才能ってのはな、自分を信じることなんだ、自分の力を信じることなんだよ」「人間はどんなことでも自分の裁量で選ぶんだ。（中略）人間はすべてを自分で選び取り、自分でその代償を払うんだ。だから、人間は自由だ！」と。

これらの言葉はアンディの生きる姿勢や態度と符合している。すなわち彼は長年掘り進めてきたトンネルがいつ発覚するかもわからない状況にあって、その不安に押しつぶされることなく、必ず脱獄できると固く信じていたと思われる。彼は他人と比べることなく、自分が為すべきことを黙々と実践した。先に述べたように彼には幅広い知識や深い専門性があったが、何にもまして「自分を信じる」という卓越した才能があったと考えられる。それゆえにキャリア・チェンジを成功させることができたのである。

また既述のとおり彼は刑務所の敷地内で下水管がどのように張り巡らされているかについては把握していたかもしれないが、その最終出口がどのようになっているかについては知らなかった可能性がある。映画では語られていないが、原作小説では暗闇の中でアンディが下水管を450メートルも這い進んだ後、その突き当りに太い針金の網が張ってあったとしたら、と仮定の話をレッドがするくだりがある。つまり、諸々の制約下にあってリスクを完全に除去することは不可能であり、おそらく現実社会でも多くの転職者やキャリア・チェンジ経験者がそうしてきたように、アンディもまた未知のリスクの存在にかすかな不安を覚えつつも、自己の勘や強運に賭けたのではないか。言い換えれば、彼は成功者であったが、それ以前に危険に対して結果責任を負うリスクテイカー（risk taker）だったのである。

4）時を読み、時を待ち、時を作り、時をつかむ

入獄当初の2年間、アンディはボグズたちから日常的に暴行を受け、生傷の絶えない生活を送っていた。もしそれが続いていたら彼は廃人同然になっていただろうとレッドは述懐している。1949年春の一件以降、彼の所内での待遇は改善されるが、終身刑2回分で服役中の彼にとって仮出所できる望みは限りなく薄かったと思われる。しかしそうした状況にあっても彼は自暴自棄に陥ることなく、淡々と、そして時に嬉々として仕事をこなしていた。

ノーベル賞作家・カミュは、小説『ペスト』（1969）の中で、人間が想像を絶するような困難と戦う唯一の方法は「誠実さ」すなわち「自分の職務をよく果すこと」であると主人公に語らせ、さらに「絶望に慣れることは絶望そのものよりもさらに悪い」「希望なくして心の平和はない」と記述させている。第2次大戦後まもなくの1947年に出版された同書は、感染症という形を借りて戦争という集団的不条理を描いた作品であるとも言われている。しかし、これらの言葉は集団の構成員である個人にも、いや個人にこそむしろよく当てはまるものであり、アンディはまさにその体現者であったといえるであろう。

ロックハンマーで初めて壁を削ったアンディは脱獄するための穴を掘り終えるのに何年かかるかを冷徹に計算する。それは気の遠くなるほど長い期間であったが、彼は19年の歳月を無為に過ごすことなく、むしろ時を味方につけながら水面下で準備を進めていく。彼は所長に利用されているふりをしながら巧みに所長を利用していた。すなわち、万一その不正が発覚しても所長が捕まらないよう、身代わりとなるランドール・スティーブンスという架空の人物を書類上に作り出し、彼の名で殖財していたのである。しかもそれらの書類にはすべてアンディがサインをするという抜かりなさであった。もちろんその裏には脱獄後は自分がその人物になり切り、その財を我が物として生きていくというしたたかな計画があったのである。このようにして彼は刑務所という施設にも絶望にも慣れることなく、静かに時を読み、時を待ち、時を作っていった。

作品後半に挿入されるレッドの「トミーの死で脱獄を決意したのだろう」というナレーションについては、若干の補足的解釈が必要であろう。確かにトミーが殺され再審請求のチャンスを完全に潰されたこともアンディが脱獄を決意する要因の一つにはなったであろうが、すでにその時点で潤沢な蓄えが積み上がったと彼は考えていたのではないだろうか。つまり、スティー

ブンス氏の銀行口座には、脱獄後の逃走費用とメキシコでの開業資金に足る十分な財が形成されており、そのことが彼の背中を押し、脱獄に踏み切る決意を促したのではないかと考えられるのである。

彼は雷鳴が轟き、雷雨が降りしきる夜が来ることを正確に予期し、その時を逃さなかった。彼は事前にそこに用意した岩で下水管を砕き、その中を這い進んで外界へと抜け出す。こうして彼は19年に及ぶ雌伏の時を経て、最後は天をも味方につけ、音も匂いも足跡もかき消してショーシャンクの町から立ち去るのである。

このことは、キャリア・チェンジに際しては、先を読み、辛抱強く、そして周到かつ慎重に行動する者ほど結果的に大胆な飛躍を遂げられることを示唆していると受け止めることができるであろう。

8. 結論

本映画の主人公アンディは、それまでの華麗な人生とは全く異なる刑務所という陰惨な環境に放り込まれ、苛酷な労役に従事しながら、そこで新たに必要とされる知識やスキル、慣行を一から学んでいった。獄中生活は自己の意に反した「著しい変化」であり、嫌がらせを超越した肉体的暴行を受けることも幾度となくあったが、彼は自身の不運や不遇に打ちのめされることなく、小さな勝利を積み重ね、周囲の信頼を勝ち獲っていく。そして長年かけて自らが掘ったトンネルをくぐり抜けて脱獄を果たし、異国の地でホテル経営という新しいビジネスを手がけることになる。それもまた「著しい変化」となるであろうが、彼がそれまでに発揮してきた能力やスキルを踏まえれば、親友のレッドと力を合わせて乗り越えていくであろうことが容易に想像されるのである。

以上から本作品をネガティブとポジティブの両方の労働環境の往環に係る「キャリア・チェンジ・ストーリー」と捉えることは十分に可能であると考えられる。また前節の考察において縷々確認されたとおり、彼はその過程においても結末においても多様な価値を幾重にも実現したことから、キャリア・チェンジの成功者とみなすことができるであろう。

さらに既存文献や先行研究で明らかにされた成功者に共通する資質や行動特性、戦略などを個々のシーンに即して吟味した結果、それらすべてを彼が具備・具現化していることも確認された。彼はキャリア・チェンジを成功させるための要素を余す所なく発揮したといえる。

一般に「学問に王道なし」と言われるように、キャリア・チェンジにも王道はないと思われる。もし多少なりともあるとすれば、明確なビジョンを思い描き、人知れず地道な準備と努力を重ねることなのかもしれない。それは言葉としては一見凡庸であるが、成功する保証がない中で己心の葛藤を律しつつ、その凡庸なことを長期にわたって行い続けることは間違いなく非凡であろう。

本作品の主人公はそれを刑務所の中で実践したのであるが、舞台設定は一つの譬えであり、逆境の中で希望を失わず懸命に生きる彼の姿が観る者の多くに深い共感をもたらすことが本作品の高評価につながっていると考えられる。彼はいわば厳しい現実社会に生きる我々自身の投影なのである。刑務所という華々しさとは無縁の施設を舞台とした本作品が、公開後四半世紀を過ぎてもなお多くの感動を世界中の人々に与え続けていることは、主人公の生き方とも重なって、本作品の非凡さを物語っているかのようでもある。

参考文献

アルク英語企画開発部編（1998）『映画で覚える英会話 アルク・シネマ・シナリオシリーズ ショーシャンクの空』, アルク .

カミュ, アルベール著 , 宮崎嶺雄訳（1969）『ペスト』, 新潮社 .

Carrillo-Tudela, C, Hobijn, B, She, P, & Visschers, L.（2016）The Extent and Cyclicality of Career Changes: Evidence for the U.K., *European Economic Review*, 84, 18-41.

Cope, P.（2019）*The 7 Secrets to Change Your Career*. London: Paul Cope Publishing.

Darabont, F.（1996）*The Shawshank Redemption: The Shooting Script*. New York: Newmarket Press.

Darabont, F.（2019）Nightly News with Lester Holt, *NBC*, <https://www.youtube.com/watch?v=IZ3VIXyvRH4&t=92s>（2020 年 10 月 31 日閲覧）

Dawidziak, M.（2019）*The Shawshank Redemption Revealed: How One Story Keeps Hope Alive*. Guilford: Lyons Press.

フランクル , E・ヴィクトール著 , 池田香代子訳（2002）『夜と霧 新版』, みすず書房 .

古川琢也（2013）『ブラック企業完全対策マニュアル』, 晋遊舎 .

ゴーリキー , マクシム著 , 安達紀子訳（2019）『どん底』,

群像社 .
Grady, M. & Magistrale, T.（2016）*The Shawshank Experience: Tracking the History of the World's Favorite Movie*. New York: Palgrave Macmillan.
Griffin, J.（1981）Midlife Career Change, *Occupational Outlook Quarterly*, 25（1）, 2-4.
服部弘一郎（2019）『銀幕の中のキリスト教』, キリスト教新聞社 .
イバーラ , ハーミニア著 , 金井壽宏監修・解説 , 宮田貴子訳（2003）『ハーバード流 キャリア・チェンジ術』, 翔泳社 .
Internet Movie Database（IMDb）*Top Rated Movies*, <https://www.imdb.com/chart/top?ref_=nv_mv_250>（2020 年 10 月 31 日閲覧）
姜尚中（2007）「姜尚中 映画を語る（第 21 回）」,『第三文明』, 第三文明社 .
金澤誠（2017）「ショーシャンクの空に」, 前野裕一編 ,『午前十時の映画祭 8 プログラム』, キネマ旬報社 .
川喜田二郎（1967）『発想法：創造性開発のために』, 中央公論新社 .
Kermode, M.（2003）*The Shawshank Redemption*. London: British Film Institute.
キング , スティーヴン著 , 浅倉久志訳（1988）『ゴールデンボーイ：恐怖の四季 春夏編』, 新潮社 .
今野晴貴（2012）『ブラック企業：日本を食いつぶす妖怪』, 文藝春秋 .
久米博（2005）「解釈学」, 下中直人編 ,『世界大百科事典』改訂版 , 第 4 巻 , 平凡社 .
黒川裕一（2005）『見ずには死ねない！名映画 300 選（外国編）』, 中経出版 .
Magistrale, T.（2003）. *Hollywood's Stephen King*. New York: Palgrave Macmillan.
牧野拓司（1985）『会社をやめて人生に勝つ：キャリア・チェンジで適職をつかめ』, マネジメント社 .
Nathan, I.（2019）*Stephen King at the Movies: A Complete History of the Film and Television Adaptations from the Master of the Horror*. London: Palazzo Editions.
西内誠（2009）「"Get busy living or get busy dying": *The Shawshank Redemption*（1994）」,『OLIVA』, 16, 97-155.
大野力（1969）『転職の社会学』, 日本実業出版社 .
Parse, R. P.（2007）Hope in "Rita Hayworth and Shawshank Redemption": A Human Becoming Hermeneutic Study, *Nursing Science Quarterly*, 20（2）, 148-154.
Reinhartz, A.（2013）*Bible and Cinema: An Introduction*. Abingdon: Routledge.
Robbins, P.（1978）*Successful Midlife Career Change*. New York: AMACOM.
Robbins, T. "*off CAMERA with Sam Jones*", <https://www.youtube.com/watch?v=KbU0WPt-nYk>（2020 年 10 月 31 日閲覧）
Sánchez-Escalonilla, A.（2005）The Hero as a Visitor in Hell: The Descent into Death in Film Structure, *Journal of Popular Film and Television*, 32（4）, 149-156.
新村出編（2018）『広辞苑 第七版』, 岩波書店
澤野純一（2020）「ある映画における宗教の多元性について：『ショーシャンクの空に』に埋め込まれたキリスト教」,『福祉と人間科学』, 30, 73-83.
高橋悟（2019）「『ショーシャンクの空に』の脱獄映画としての独創性」,『大阪樟蔭女子大学研究紀要』, 9, 13-24.
高橋悟（2020a）「映画『ショーシャンクの空に』の主人公が実現したものとは何か：フランクルが唱えた 3 つの価値の視点から」,『大阪樟蔭女子大学研究紀要』, 10, 13-22.
高橋悟（2020b）「映画『ショーシャンクの空に』の英文原題を考える：*redemption* が意味するものとは」,『英語と文化：大阪樟蔭女子大学樟蔭英語学会誌』, 10, 7-22.
武元康明（2018）『超一流ヘッドハンターが教える！30 代からの「異業種」転職 成功の極意』, 河出書房新社 .
戸松泉（2012）「エクリチュールの解釈学：森鴎外『舞姫』の改稿をめぐって」, 松澤和宏編 ,『テクストの解釈学』, 水声社 .
鷲巣義明（1995）「スティーヴン・キング映画の系譜」,『キネマ旬報』, 1162, 26-29.
渡辺祥子（1995）「ティム・ロビンスってほんとにいい役者」,『キネマ旬報』, 1162, 24-25.
山本寛（2005）『転職とキャリアの研究：組織間キャリア発達の観点から』, 創成社 .

映画作品

『ショーシャンクの空に』（*The Shawshank Redemption*）. Dir. Frank Darabont. Castle Rock Entertainment, 1994. Shochiku Home Video, 2007. DVD.

（本稿の中で引用したセリフは、特に記載のない限り、
本 DVD の日本語字幕を採用した）

The Shawshank Redemption as a Career Change Story

Faculty of Liberal Arts, Department of English as an International Language
Satoru TAKAHASHI

Abstract

Even after over a quarter of a century since its release, the movie titled *The Shawshank Redemption* has been inspiring and touching many people around the globe. While some critiques or debates have been done on this film, little to no interpretation can be found asserting that this masterpiece can be appreciated as a “career change story” in which the protagonist experiences totally different work environments. The author of this paper meticulously analyzed it in line with the hitherto existing definition of “career change.” As a result, it was revealed that the film can be fully regarded as a career change story in which the main character becomes a winner who creates a wide variety of values for himself and others. He appears to possess and exert all the traits that are necessary for a successful midlife career change. After all, a prison is merely a metaphor for the harsh reality of society, and he seems to mirror us, the common people, who struggle to move forward in our daily lives..

Keywords: *The Shawshank Redemption*, career change story, career change movie, career change